

7-1 大津市立公民館の事業に関する調査 (平成 24 年度事業)

滋賀大学 社会連携研究センター 教授 神部 純一

1. 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

この調査は、大津市の公民館の実態を把握するために行う。

調査の結果は、今後の公民館のあり方について検討する際の基礎資料とする。

(2) 調査の方法

1) 調査対象: 大津市立公民館

2) 標本数 : 36

3) 調査方法: 郵送法

4) 調査期間: 平成 25 年 4 月 22 日～5 月 1 日

5) 回収結果: 36 (回収率 100%)

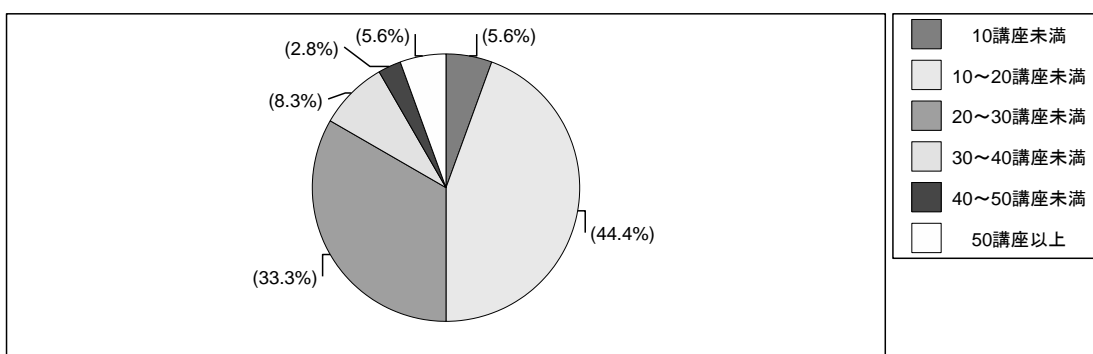
2. 公民館講座(主催・共催)について

その結果、年間事業予算額は「20 万円未満」と回答した館の率が 74.3%、「20～50 万円未満」と回答した館の率が 25.7%となっていた。

(1) 講座の全体的な傾向

1) 年間講座数

図 1 は、公民館の年間講座数をみたものである。

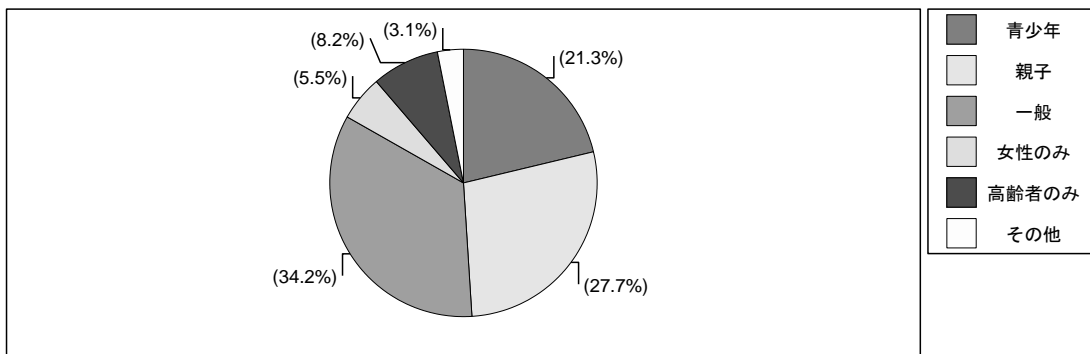


【図 1 公民館の年間講座数(N=36)】

その結果、講座数は「10～20 講座未満」の館の率が 44.4%でもっとも高く、次いで「20～30 講座未満(33.3%)」となっていた。

2) 講座実施対象者

図 2 は、講座実施対象者をみたものである。

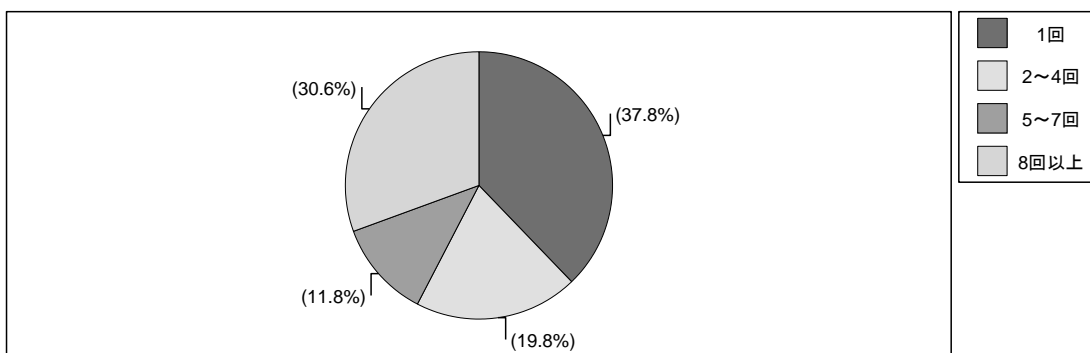


【図 2 講座実施対象者(複数回答)】

その結果、「一般(特に対象を限定せずに誰もが参加できるもの)」を対象とした講座の率が 34.2%でもっとも高く、次いで「親子(乳幼児とその親を対象としたもの)(27.7%)」、「青少年(小学生から 20 歳未満を対象としたもの)(21.3%)」の順となっていた。

3) 講座の実施回数

図 3 は、講座の実施回数をみたものである。



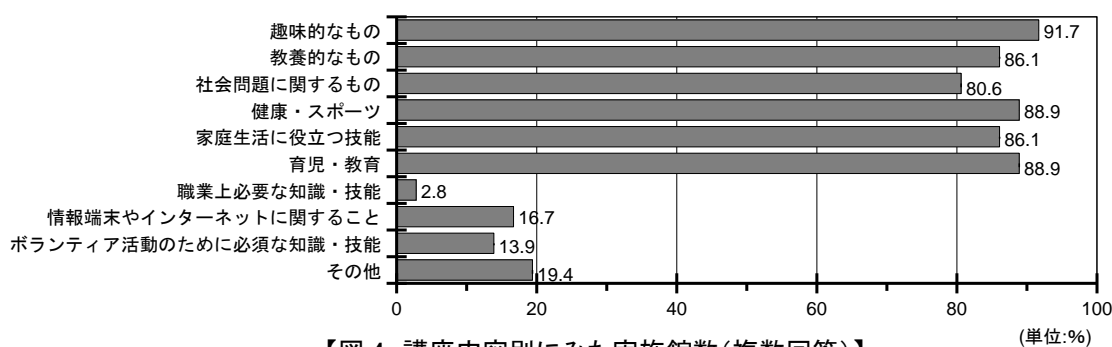
【図 3 講座の実施回数(複数回答)】

その結果、実施回数は「1 回」の講座の率が 37.8%でもっとも高く、次いで「8 回以上(30.6%)」となっていた。

4) 講座の内容

① 講座内容別の実施館数

図 4 は、講座内容別に実施館数をみたものである。



【図 4 講座内容別にみた実施館数(複数回答)】

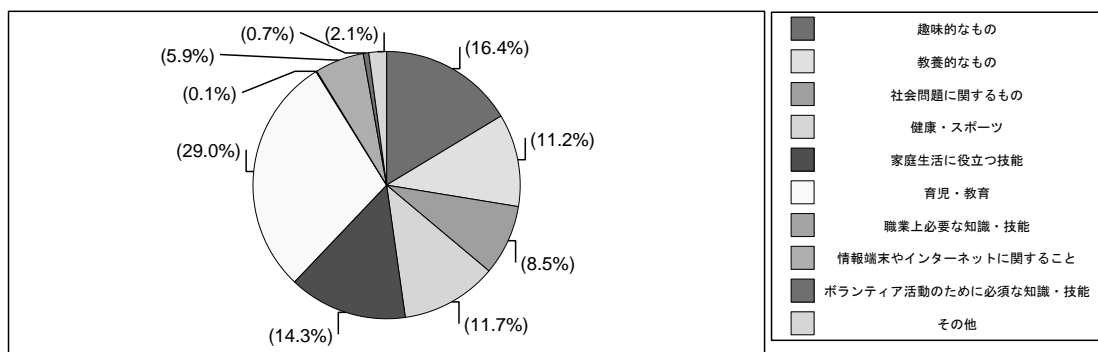
(単位:%)

その結果、「趣味的なもの(音楽、美術、華道、書道など)(91.7%)」、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)(86.1%)」、「社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)(80.6%)」、「健康・スポーツ(健康法、栄養、ジョギングなど)(88.9%)」、「家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)(86.1%)」、「育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)(88.9%)」についての講座は、8割以上の館で実施されていた。

一方、「職業上必要な知識・技能(仕事に関する知識の習得や資格の取得など)(2.8%)」、「情報端末やインターネットに関すること(使い方、ホームページの作り方など)(16.7%)」、「ボランティア活動のために必要な知識・技能(13.9%)」について講座を実施した館は、2割に満たなかった。

②講座内容別の講座数

図5は、講座内容別に講座数をみたものである。



【図5 講座内容別にみた講座数(複数回答)】

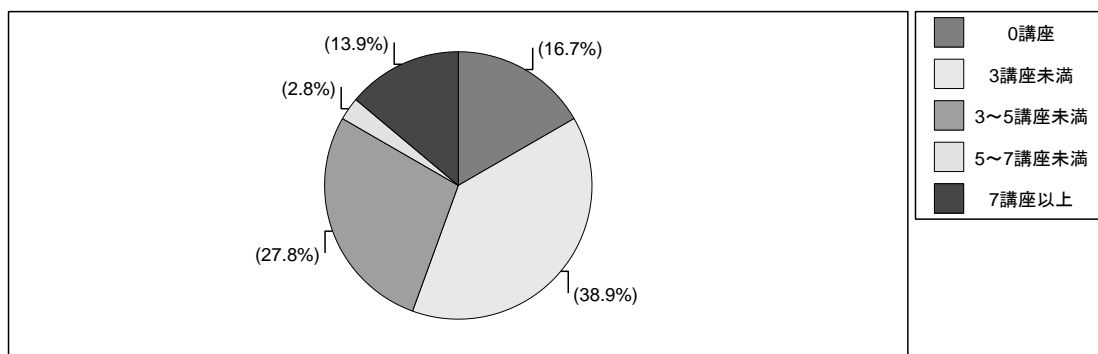
その結果、講座数は「育児・教育」に関するものの率が29.0%でもっとも高く、次いで「趣味的なもの(16.4%)」、「家庭生活に役立つ技能(14.3%)」の順となっていた。

3. 地域についての講座について

(1) 講座の全体的な傾向

1) 年間講座数

図6は、地域についての年間講座数をみたものである。

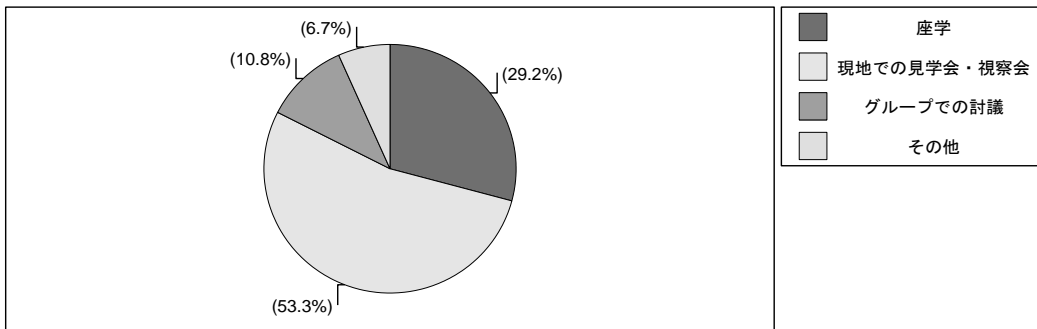


【図6 年間講座数(N=36)】

その結果、講座数は「3講座未満」の館の率が38.9%でもっとも高く、次いで「3~5講座未満(27.8%)」となっていた。また、地域についての講座を実施していない館の率は、16.7%であった。

2) 講座実施方法

図 7 は、講座実施方法をみたものである。

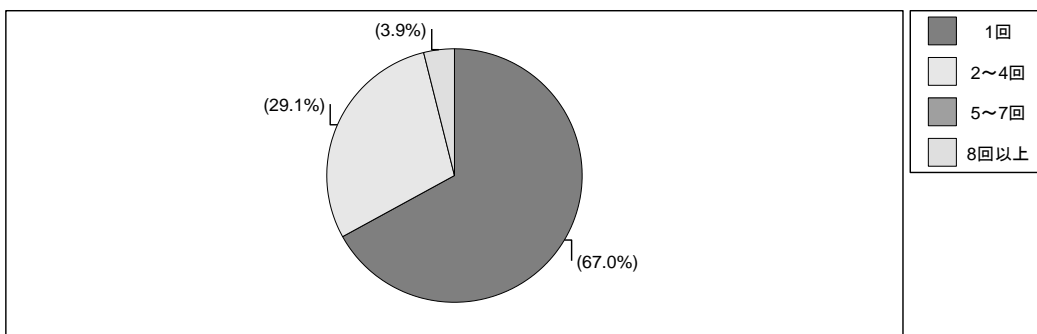


【図 7 講座実施方法 (複数回答)】

その結果、「現地での見学会・視察会」を行った講座の率が 53.3%でもっとも高く、次いで「座学(29.2%)」となっていた。

3) 講座の実施回数

図 8 は、講座の実施回数をみたものである。



【図 8 講座の実施回数 (複数回答)】

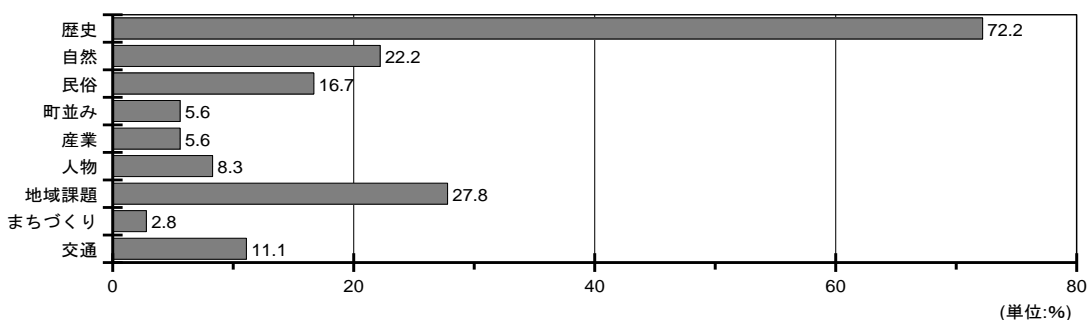
その結果、実施回数は「1回」の講座の率が 67.0%でもっとも高く、次いで「2~4回(29.1%)」となっていた。

4) 講座の内容

① 講座内容別の実施館数

図 9 は、講座内容別に実施館数をみたものである。

その結果、「大津または周りの地域の歴史(歴史的事実、史跡、文化財など)」に関する講座を実施した館の率が、72.2%でもっとも高く、次いで「大津または周りの地域の地域課題(防災、環境など)(27.8%)」、「大津または周りの地域の自然(地形、気候、生物、災害など)(22.2%)」の順となっていた。

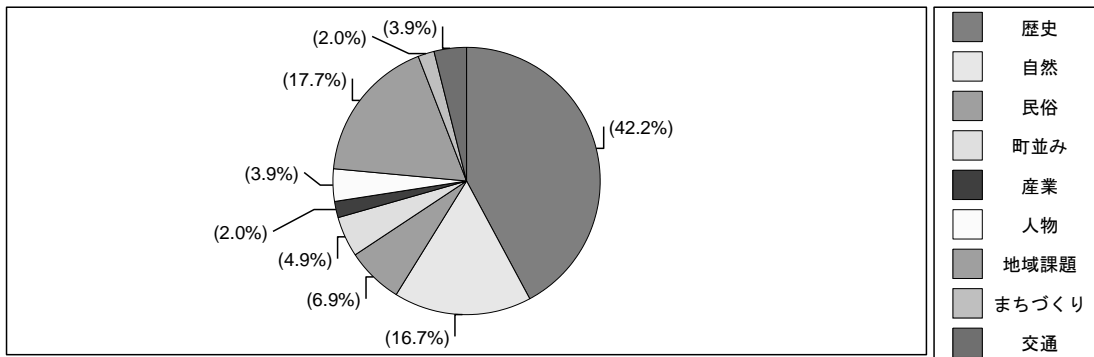


【図 9 講座内容別にみた実施館数 (複数回答)】

②講座内容別の講座数

図 10 は、講座内容別に講座数をみたものである。

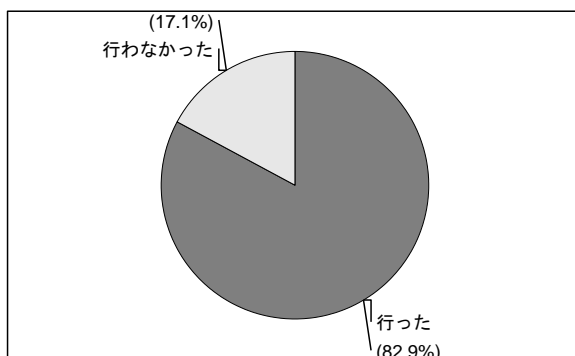
その結果、講座数は「大津または周りの地域の歴史」に関するものの率が 42.2%でもっとも高く、次いで「大津または周りの地域の地域課題(17.7%)」、「大津または周りの地域の自然(16.7%)」の順となっていた。



【図 10 講座内容別にみた講座数(複数回答)】

4. 学区の地域性を考慮した取り組み

図 11 は、学区の地域性を考慮した取り組みの実施の有無をみたものである。



その結果、82.9%の館が「行った」と回答していた。その具体的な取り組みは以下にまとめている。

【図 11 学区の地域性を考慮した取り組みの実施の有無(N=36)】

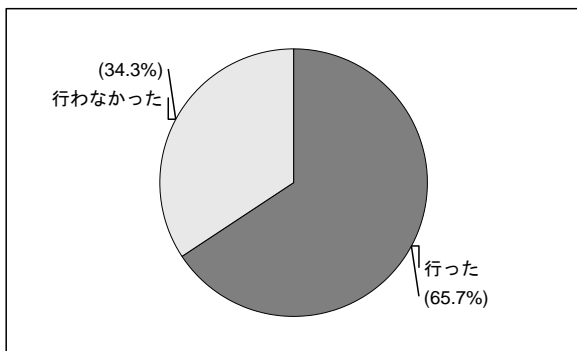
木戸	歴史散策
伊香立	各町の史跡めぐり、料理教室
真野北	地域の団体との共催での事業を行った。
真野	○真野川周辺の秋の草花についての自然観察会、真野の歴史講座 ○真野浜のヨシを使った工作会、ヨシたいまつ時のペットボトルイルミネーション作り ○自主防災会・北消防署とタイアップしての子ども向けの防災講座(洪水、地震等)
堅田	子ども達自身の思いや願い、意見に大人が耳を傾け、青少年に対する理解や共感を深める機会とし、地域に根ざした青少年の健全育成と人権の町づくりを目的に「堅田のWAを考える市民の集い」を開催する。
仰木	この地は、高齢者の多い小さな農村地域で、昔からの伝統や風習が今も守り続けられ、人々の繋がりの良い面と悪い面を合わせもっている。 このような地域の実態を考え、その実態に合った研修内容に努めるようにこころがけた。
仰木の里	新興住宅地であり、京都、大阪より移り住む住人が多い為、地域を知る、又、仲間づくりをする為の講座を実施

雄琴	地元小学校で採取された粘土を使用して、陶芸体験教室を行った。
日吉台	学区内にある文化財「平石古墳」「高峰古墳」について学び、新興住宅街でありながら歴史ある土地柄であることの理解を深め、文化財を大切に作る機運を高め、地域への愛着を深める。講師として、大津市埋蔵文化財調査センター所長である松浦俊和氏を招聘した。
坂本	坂本地域の歴史や伝統的な行事等を取りあげた講座の開催
下阪本	転入者が近年、多い学区であるため、地域住民の交流が深まるような内容を取り組んだ。
唐崎	地域に根ざした人権問題について、体験談を語ってもらい、その後、ディスカッションを行なった。
滋賀	滋賀学区には近江神宮、紀貫之をご祭神とする福王子神社、大伴黒主をご祭神とする大伴神社があり「和歌、百人一首」と縁が深い。小学生対象にこれらの場所を訪ね百人一首、競技かるたを学び体験する講座を、一般対象に地域の団体と協力し地域の共同財産である建物で夏まつり、地域の人材による音楽会、寸劇などを行った。
山中 比叡平	昆虫と友だちになろう！、自然散策ウォーキング ※共に地域の自然を生かした講座を開催
中央	江州音頭講座
平野	マンションが多く、新しい住人や若い夫婦が多い。子育てが孤育てにならないように、仲間づくり、友達づくりをすすめた。
膳所	膳所の歴史を学ぶ
富士見	○地元でビオトープ活動をしているNPOと共催で親子で参加する自然体験活動を行った。 ○地元の社会資源市民温水プールと共催でカヌー体験と水上安全教室を実施。
晴嵐	奈良時代から江戸時代末期までの数々の歴史舞台となった晴嵐学区内を探訪し、自分の住んでいる地域を再発見する取り組みを行った。
石山	学区にある石山しじみ貝塚についての講演会を実施した。
南郷	「西国巡礼と南郷」というテーマで講義と現地見学
大石	大石邸跡から龍門をたずねて(地域を知るための散策と歴史についての講和)
田上	公民館竣工式で地元伝承文化である和太鼓を次代に継承すべく活動している太神太鼓フェニックスの演奏を披露した。
上田上	地域の自然・歴史にふれる催し(歩こう会、釣り大会)
青山	例)子育て世代が多い学区として、親子参加型イベント(事業)を充実させた。(各種子育てサークルや地域各種団体との共催)
瀬田	京阪神地区のベッドタウンとして肥大化する瀬田の町にも、都会的な住宅と田畑が残る田園風の環境が共存している。特に田畑の残る環境を大切にし、「地域人材育成事業」として、地域の古老を講師に「わらから作るしめ縄飾り」作りの講座を実施した。
瀬田北	○居住地近隣に親しみを持っていただくために、公民館を基点として近隣の歴史や史跡について学ぶ講座 ○子育て中の母親が多い地域なので、ママの気分転換になるような講座
瀬田南	学区内に点在する史跡に関して理解を深めるための史跡めぐりほか
瀬田東	瀬田地区には、遺跡や史跡が数多くあり、他府県からの方や地域住民の方により多く地域を知って頂くために、歴史ボランティアガイドの養成講座を実施

5. 地域で活動する人材の育成

(1) 地域で活動する人材の育成の有無

図 12 は、地域で活動する人材の育成の有無をみたものである。



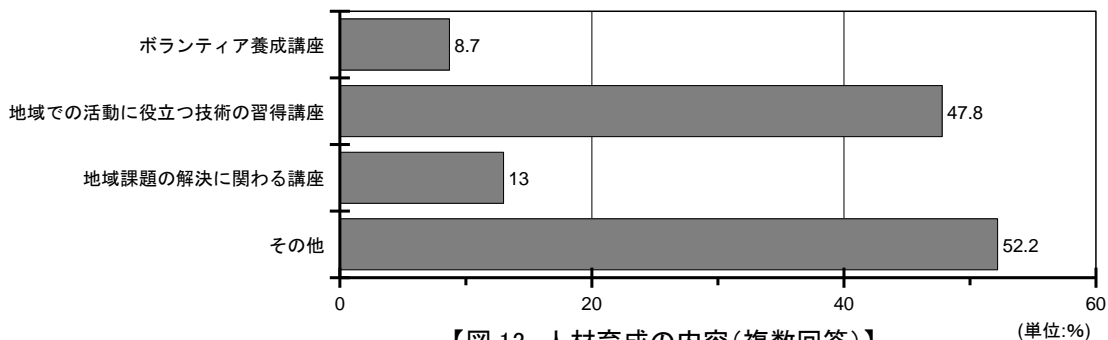
その結果、65.7%の館が「行った」と回答していた。

【図 12 地域で活動する人材の育成の有無(N=36)】

(2) 人材育成の内容

図 13 は、人材育成の内容をみたものである。

その結果、人材育成の内容は、「その他」と回答した館の率が 52.2%でもっとも高く、次いで「地域での活動に役立つ技術の習得講座(47.8%)」となっていた。



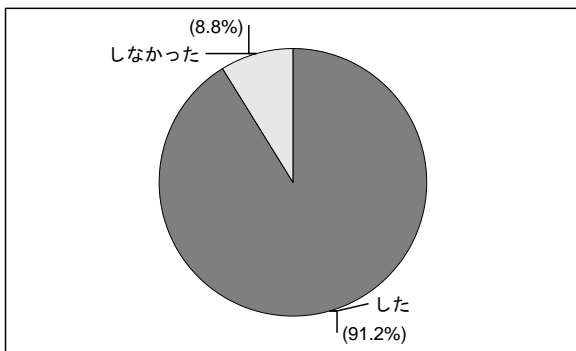
【図 13 人材育成の内容(複数回答)】

(単位:%)

6. 地域の人々の交流・仲間づくりを意図した取り組み

(1) 地域の人々の交流・仲間づくりを意図した取り組みの有無

図 14 は、地域の人々の交流・仲間づくりを意図した取り組みの有無をみたものである。



その結果、91.2%の館が「した」と回答していた。

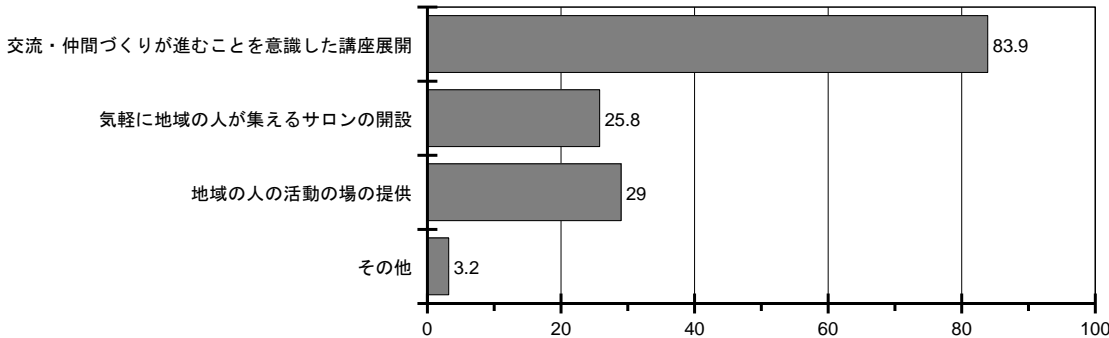
【図 14 地域の人々の交流・仲間づくりを意図した取り組みの有無(N=36)】

(2) 地域の人々の交流・仲間づくりを意図した取り組みの内容

図 15 は、地域の人々の交流・仲間づくりを意図した取り組みの内容をみたものである。

その結果、「交流・仲間づくりが進むことを意識した講座展開」と回答した館の率が、83.9%でもっとも高く、次いで「地域の人々の活動の場の提供(29.0%)」となっていた。

「その他」には「子育て年代を対象とした子育て支援事業を通年(全12回)で行った。(真野公民館)」との記述があった。

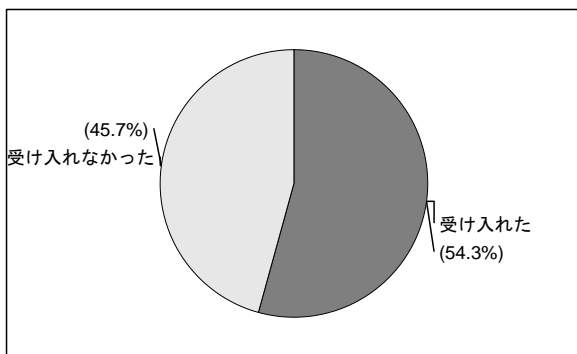


【図 15 地域の人々の交流・仲間づくりを意図した取り組みの内容(複数回答)】

7. ボランティアの受け入れについて

(1) ボランティアの受け入れの有無

図 16 は、ボランティアの受け入れの有無をみたものである。

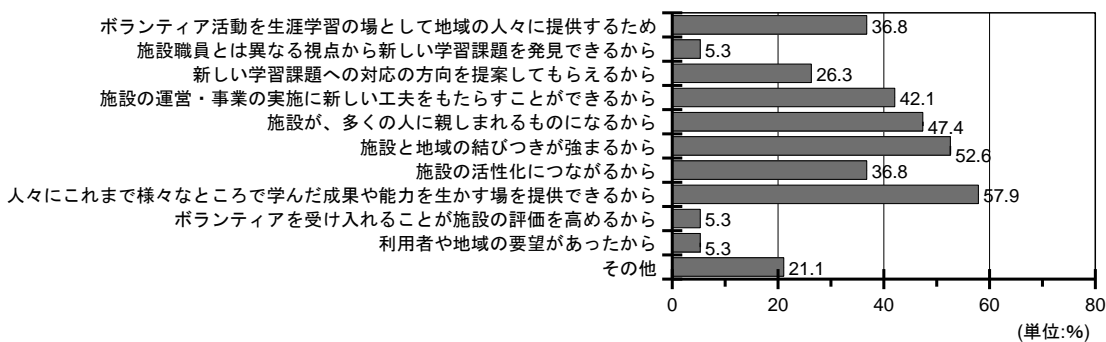


その結果、54.3%の館が「受け入れた」と回答していた。

【図 16 ボランティアの受け入れの有無(N=36)】

(2) ボランティアを受け入れた理由

図 17 は、館がボランティアを受け入れた理由をみたものである。

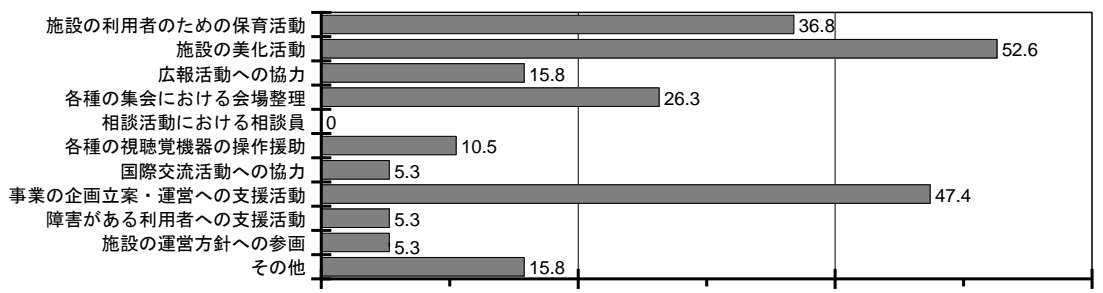


【図 17 ボランティアを受け入れた理由(複数回答)】

その結果、「人々にこれまで様々なところで学んだ成果や能力を生かす場を提供できるから」と回答した館の率が、57.9%でもっとも高く、次いで「施設と地域の結びつきが強まるから(52.6%)」、「施設が、多くの人に親しまれるものになるから(47.4%)」の順となっていた。

「その他」には「施設職員だけでは運営がままならないから。人材不足＝主に公民館利用者団体に応援を要請または自主的に運営されている。(唐崎公民館)」、「以前より滋賀大学教育学部と地域ボランティアとの共催事業を実施しているから。(石山公民館)」、「参加者が多かったため、指導補助をお願いした。(大石公民館)」、「奉仕活動(瀬田公民館)」という記述があった。

また、館でのボランティアの内容をみたのが、図 18 である。



【図 18 ボランティアの内容(複数回答)】

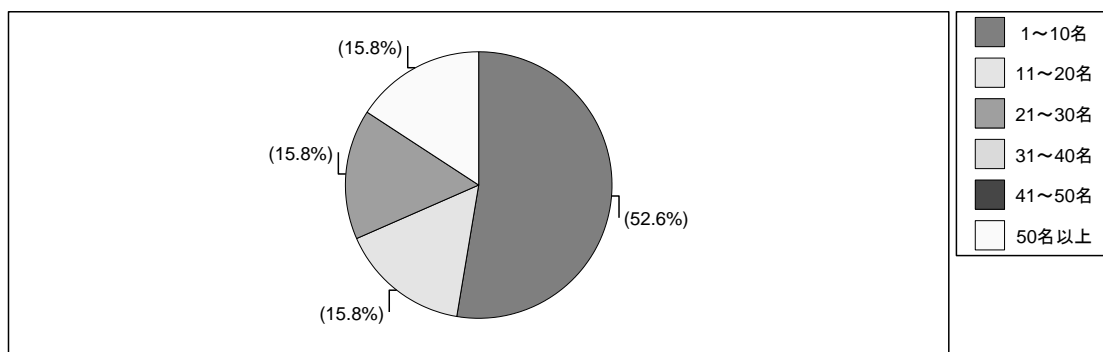
(単位:%)

その結果、「施設の美化活動」と回答した館の率が、52.6%でもっとも高く、次いで「事業の企画立案・運営への支援活動(47.4%)」、「施設の利用者のための保育活動(36.8%)」の順となっていた。

「その他」には、「各会議において、会場整理を担当役員で行なった。(中央公民館)」、「農業体験や自然観察などの支援活動(石山公民館)」、「指導補助(大石公民館)」という記述があった。

最後に、受け入れたボランティアの人数をみたのが、図 19 である。

その結果、「1～10名」と回答した館の率が、52.6%でもっとも高く、次いで「11～20名(15.8%)」と「21～30名(15.8%)」と「50名以上(15.8%)」となっていた。

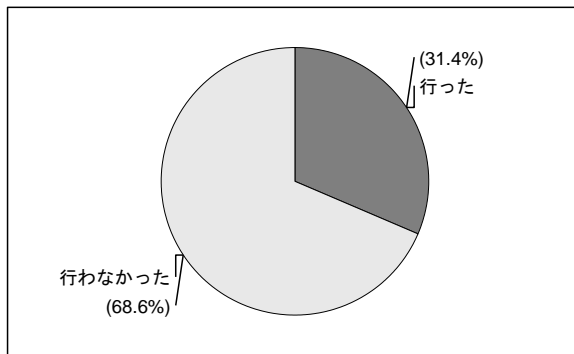


【図 19 受け入れたボランティアの人数(N=36)】

8. 公民館事業の修了者に対する学習成果の活用支援

(1) 公民館事業の修了者に対する学習成果の活用支援の有無

図 20 は、公民館事業の修了者に対する学習成果の活用支援の有無をみたものである。



その結果、31.6%の館が、「行った」と回答していた。

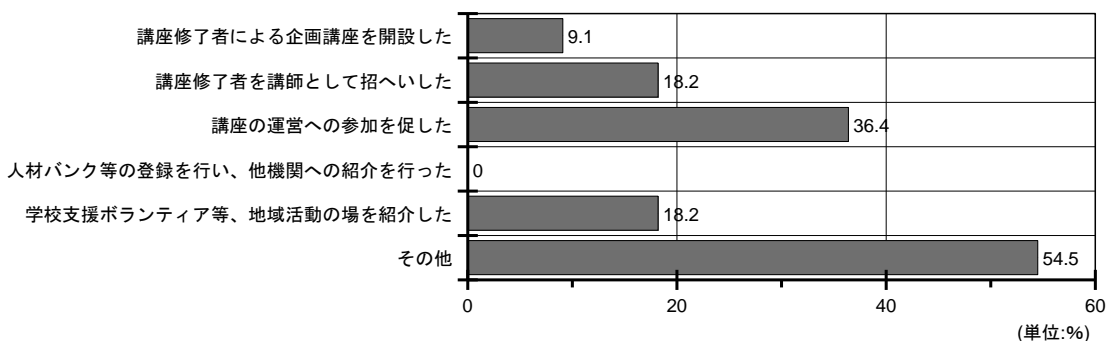
【図 20 公民館事業の修了者に対する学習成果の活用支援の有無(N=36)】

(2) 公民館事業の修了者に対する学習成果の活用支援の内容

図 21 は、公民館事業の修了者に対する学習成果の活用支援の内容をみたものである。

その結果、「その他」と回答した館の率が、54.5%でもっとも高く、次いで「講座の運営への参加を促した(36.4%)」となっていた。

「その他」としては、「講座で作成した作品を文化祭で展示した。(和邇公民館)」、「講座で作成した作品を文化祭で展示した。(小野公民館)」、「講座修了者をリーダーとするサークルの立ち上げ(滋賀公民館)」、「文化祭において作品を展示する場所を設営し、希望者の作品を飾った。(大石公民館)」、「利用団体の登録を進めた。(田上公民館)」、「成果を発表する場を設ける。(上田上公民館)」という記述があった。

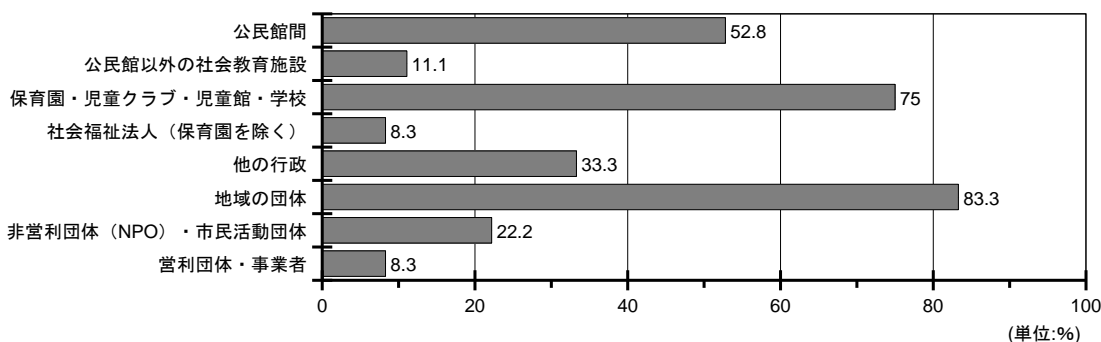


【図 21 公民館事業の修了者に対する学習成果の活用支援の内容(複数回答)】

9. 連携事業について

(1) 連携事業の実施館数

図 22 は、連携事業の実施館数をみたものである。

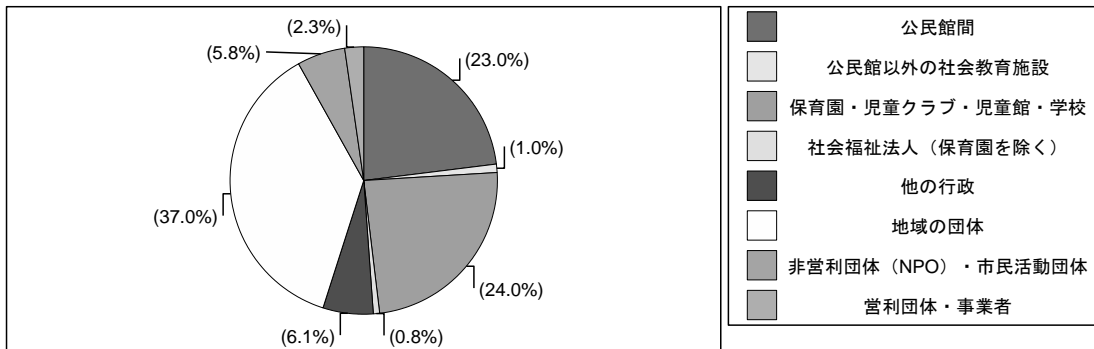


【図 22 連携事業の実施館数(複数回答)】

その結果、「地域の団体(自治会、老人クラブ、女性会、健康推進協議会等)」と連携している館の率が、83.3%でもっとも高く、次いで「保育園・児童クラブ・児童館・学校(幼稚園、小学校、中学校、高校、大学)(75.0%)」、「公民館間(52.8%)」の順となっていた。

(2) 連携事業の実施件数

図 23 は、連携事業の実施件数をみたものである。その結果、「地域の団体(自治会、老人クラブ、女性会、健康推進協議会等)」と連携している事業の率が 37.0%でもっとも高く、次いで「保育園・児童クラブ・児童館・学校(幼稚園、小学校、中学校、高校、大学)(24.0%)」、「公民館間(23.0%)」の順となっていた。



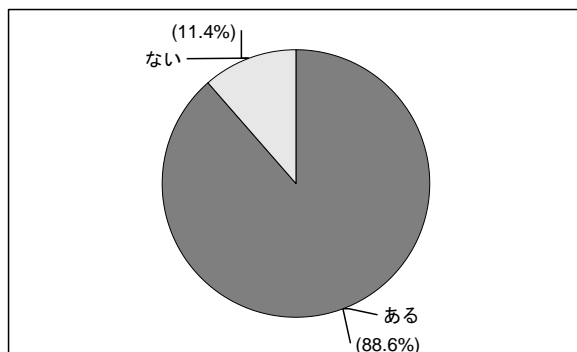
【図 23 連携事業の実施件数(複数回答)】

10. 管理運営体制について

(1) 管理運営上で、苦慮していることの有無

図 24 は、館の管理運営上で、苦慮していることの有無をみたものである。

その結果、88.6%の館が「ある」と回答していた。

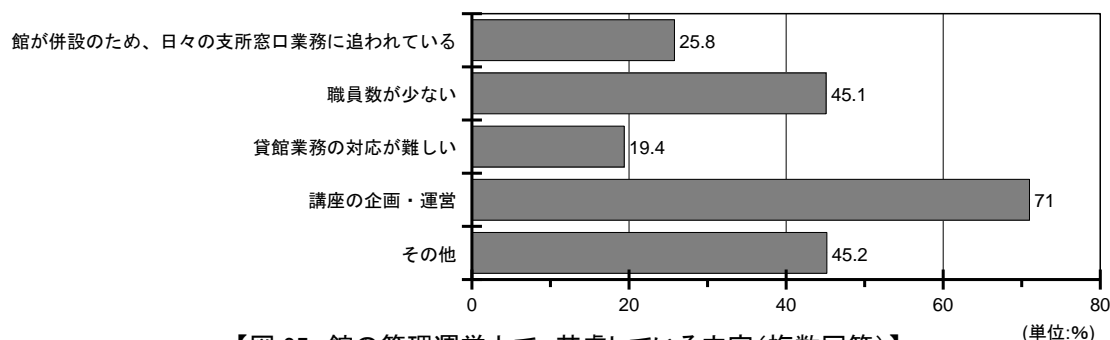


【図 24 館の管理運営上で、苦慮していることの有無(N=36)】

(2) 苦慮している内容

図 25 は、館の管理運営上で、苦慮している内容をみたものである。

その結果、苦慮している内容としては「講座の企画・運営」をあげた館の率が、71.0%でもっとも高く、次いで「その他(45.2%)」、「職員の数が少ない(45.1%)」の順となっていた。



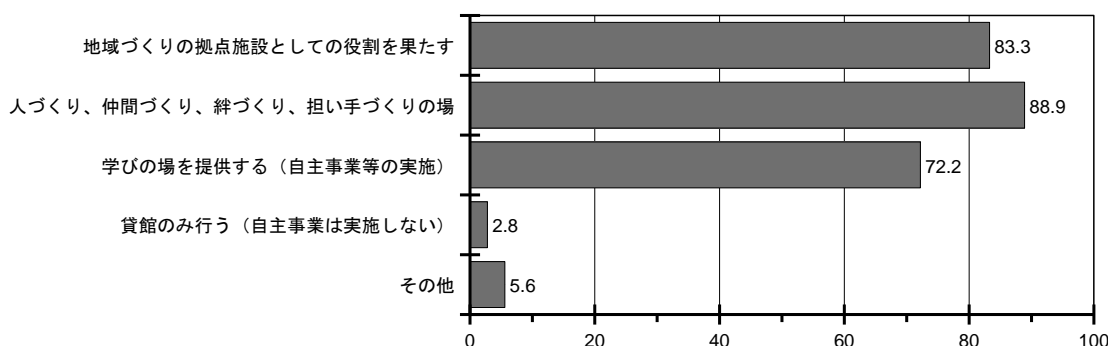
【図 25 館の管理運営上で、苦慮している内容(複数回答)】

(単位:%)

11. 公民館のあるべき姿

(1) 公民館はどうあるべきか

図 26 は、地域にとって公民館はどうあるべきかをみたものである。



【図 26 地域にとって公民館はどうあるべきか(複数回答)】

その結果、「人づくり、仲間づくり、絆づくり、担い手づくりの場」をあげた館の率が、88.9%でもっとも高く、次いで「地域づくりの拠点施設としての役割を果たす(83.3%)」となっていた。

12. 調査のまとめ

(1) 公民館講座(主催・共催)について

公民館の年間講座数は、「10～20 講座未満」の館の率が 44.4%でもっとも高く、次いで「20～30 講座未満(33.3%)」となっていた。1 館平均して 25 講座を実施している計算になる。

講座内容別に実施館数をみると、「趣味的なもの(音楽、美術、華道、書道など)(91.7%)」、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)(86.1%)」、「社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)(80.6%)」、「健康・スポーツ(健康法、栄養、ジョギングなど)(88.9%)」、「家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)(86.1%)」、「育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)(88.9%)」についての講座は、8 割以上の館で実施されていた。かなり多様な内容の講座が実施されていることは評価できる。

しかし、「情報端末やインターネットに関すること(使い方、ホームページの作り方など)(16.7%)」や「ボランティア活動のために必要な知識・技能(13.9%)」について講座を実施した館は 10%台と低いことが気になる。

ちなみに、講座内容別に講座数をみると、「育児・教育(29.0%)」という「子育てに関する講座」と、「趣味的なもの(16.4%)」や「教養的なもの(11.2%)」といった「趣味・教養に関する講座」で、全体の 56.6%を占めていた。一方、「情報端末やインターネットに関すること(5.9%)」と「ボランティア活動のために必要な知識・技能(0.7%)」は、合わせても 6.6%にしかならなかった。

講座実施対象者は、「一般(特に対象を限定せずに誰もが参加できるもの)」を対象とした講座の率が 34.2%でもっとも高く、次いで「育児・教育」に関する講座数が多いこともあり「親子(27.7%)」を対象とした講座となっていた。また、「青少年(21.3%)」を対象とした講座も多く実施されていた。

講座の実施回数をみると、「1回」の講座の率が 37.8%でもっとも高く、次いで「8回以上(30.6%)」となっており、1講座の回数が極端に分かれた。「1回」の講座が多いのは、「社会問題に関するもの(58.7%)」と「ボランティア活動のために必要な知識・技能(50.0%)」である。一方、「8回以上」の講座が多かったのは、「情報端末やインターネットに関すること(84.9%)」と「育児・教育(52.4%)」であった。

(2) 地域についての講座について

地域についての年間講座数は「3講座未満」の館の率が 38.9%でもっとも高く、次いで「3～5講座未満(27.8%)」となっていた。また、地域についての講座を実施していない館の率は、16.7%であった。1館平均して2.9講座を実施している計算になる。講座内容別に実施館数をみると、「大津または周りの地域の歴史(歴史的事実、史跡、文化財など)」に関する講座を実施した館の率が、72.2%でもっとも高く、次いで「大津または周りの地域の地域課題(防災、環境など)(27.8%)」、「大津または周りの地域の自然(地形、気候、生物、災害など)(22.2%)」の順となっていた。一方、「大津または周りの地域の町並み」、「大津または周りの地域の産業」、「大津または周りの地域の人物」、そして「大津または周りの地域のまちづくり」に関する講座を実施している館の率は1割に満たなかった。

ちなみに、講座内容別に講座数をみると、「大津または周りの地域の歴史」に関するものの率が 42.2%でもっとも高く、それに続くのは「大津または周りの地域の地域課題(17.7%)」や「大津または周りの地域の自然(16.7%)」となっていた。地域についての学習機会は、歴史に関するものが非常に多いことがわかる。

講座実施方法は、「現地での見学会・視察会」を行った講座の率が 53.3%でもっとも高く、次いで「座学(29.2%)」となっていた。講座数が多いもの(「歴史」、「自然」、「民俗」、「地域課題」)を内容別にみると、「歴史」、「自然」、そして「民俗」の講座では「現地での見学会・視察会」を行う率が高く、特に「自然」に関する講座ではほとんどがこの方法で行われていた。一方、「地域課題」では「グループでの討議」を行う率が高いことがわかった。

講座の実施回数は、「1回」の講座の率が 67.0%でもっとも高く、次いで「2～4回(29.1%)」となっていた。講座数が多いもの(「歴史」、「自然」、「民俗」、「地域課題」)を内容別にみると、「自然」と「地域課題」は、「1回」限りのものが多く、特に「地域課題」の講座は、すべて「1回」のみのものであった。

(3) 学区の地域性を考慮した取り組み

学区の地域性を考慮した取り組みの実施の有無をみると、82.9%の館が「行った」と回答していた。

具体的内容としては、「地域の歴史や自然を題材とした講座の開設」、「新興住宅地における仲間づくりを意識した講座の開設」、「伝統行事や和太鼓等、地域の文化を意識した講座や活動」といったことが行われていた。

(4) 地域で活動する人材の育成

地域で活動する人材の育成の有無をみると、65.7%の館が「行った」と回答していた。

人材育成の内容としては、「その他」と回答した館の率が 52.2%でもっとも高く、次いで「地域での活動に役立つ技術の習得講座(47.8%)」となっていた。

具体的な内容としては、「地域での活動に役立つ技術の習得講座」では「ガーデニング講座」、「パソコン講座」、「剪定の実技と学習の講座」、「男の料理教室」等があげられていた。また、「地域課題の解決に関わる講座」としては「交通安全教室」や「女性リーダー養成講座」があげられていた。そして「その他」としては、「講師として地域の方を

活用する」、「講座の企画・運営に携わってもらう」といったことがあげられていた。

(5) 地域の人々の交流・仲間づくりを意図した取り組み

地域の人々の交流・仲間づくりを意図した取り組みの有無をみると、91.2%の館が「した」と回答していた。取り組みの内容としては、「交流・仲間づくりが進むことを意識した講座展開」と回答した館の率が、83.9%でもっとも高く、次いで「地域の人の活動の場の提供(29.0%)」となっていた。

(6) ボランティアの受け入れについて

ボランティアの受け入れの有無をみると、54.3%の館が「受け入れた」と回答していた。逆に言えば、約半数の館はボランティアを受け入れていないわけだが、平成18年度に行った県内の公民館調査において、「受け入れた」と回答した大津市立公民館の率が35.3%であったことと比較すると、19.0ポイント上昇している。

館がボランティアを受け入れた理由をみると、「人々にこれまで様々なところで学んだ成果や能力を生かす場を提供できるから」と回答した館の率が、57.9%でもっとも高く、次いで「施設と地域の結びつきが強まるから(52.6%)」、「施設が、多くの人に親しまれるものになるから(47.4%)」の順となっていた。

また、館でのボランティアの内容をみると、「施設の美化活動」と回答した館の率が、52.6%でもっとも高く、次いで「事業の企画立案・運営への支援活動(47.4%)」、「施設の利用者のための保育活動(36.8%)」の順となっていた。これらの中で、約半数の館が「事業の企画立案・運営」にボランティアの力を取り入れていることは注目に値する。

最後に、受け入れたボランティアの人数をみると、「1～10名」と回答した館の率が、52.6%でもっとも高く、次いで「11～20名(15.8%)」と「21～30名(15.8%)」と「50名以上(15.8%)」となっていた。

(7) 公民館事業の修了者に対する学習成果の活用支援

公民館事業の修了者に対する学習成果の活用支援の有無をみると、31.6%の館が、「行った」と回答していた。

その内容としては、「その他」と回答した館の率が、54.5%でもっとも高く、次いで「講座の運営への参加を促した(36.4%)」となっていた。「その他」としては、「講座で作成した作品を文化祭で展示した」、「講座修了者をリーダーとするサークルの立ち上げ」、「文化祭において作品を展示する場所を設営し、希望者の作品を飾った」、「利用団体の登録を進めた」、「成果を発表する場を設ける」という記述があった。

(8) 連携事業について

1) 連携事業の実態

連携事業の実施館数をみると、「地域の団体(自治会、老人クラブ、女性会、健康推進協議会等)」と連携している館の率が、83.3%でもっとも高く、次いで「保育園・児童クラブ・児童館・学校(幼稚園、小学校、中学校、高校、大学)(75.0%)」、「公民館間(52.8%)」の順となっていた。

平成18年度に行った県内の公民館調査における、大津市立公民館の結果と比較すると、「地域の団体(自治会、老人クラブ、女性会、健康推進協議会等)」と連携している館の率をもっとも高く、次いで「保育園・児童クラブ・児童館・学校(幼稚園、小学校、中学校、高校、大学)」であることは変わらなかったが、次いで率が高かったのは「他の行政(環境、健康、医療、警察、消防等)」であり、「公民館間」の連携をしていた館の率は18.2%にとどまっていた。この6年で、公民館同士の連携事業の率は34.6ポイント上昇したことになる。

連携事業の実施件数をみると、「地域の団体(自治会、老人クラブ、女性会、健康推進協議会等)」と連携している事業の率が、37.0%でもっとも高く、次いで「保育園・児童クラブ・児童館・学校(幼稚園、小学校、中学校、高校、大

学) (24.0%)」、「公民館間(23.0%)」の順となっていた。

同じく、平成 18 年度に行った県内の公民館調査における、大津市立公民館の結果と比較すると、「地域の団体(自治会、老人クラブ、女性会、健康推進協議会等)」と連携している事業の率がもっとも高く、次いで「保育園・児童クラブ・児童館・学校(幼稚園、小学校、中学校、高校、大学)」であることは変わらなかったが、次いで率が高かったのは「他の行政(環境、健康、医療、警察、消防等)」であり、「公民館間」の連携をしている事業の率は 3.9%であった。この 6 年で、公民館同士の連携事業の率は 19.1 ポイント上昇している。

2) 連携事業の効果

連携事業の効果としては、以下のことがいえる。

【事業の実施に関して】

「スタッフの数が増えて、効率よく事業が展開できる」や「人的要員が確保できるため、公民館だけでは企画できないような大掛かりな事業が展開できる」というように、スタッフが増えたことにより、事業の効率的な展開、これまでできなかった大がかりな事業の実施が可能になった。

【講座の実施に関して】

「企画や運営について多くの提案があり、選択肢が広がった」や「各館でこれまでに蓄積された資料等が、講座の魅力を引き立てた」というように、魅力的な講座の実施につながった。

【住民参加に関して】

「地域と連携することにより、地域によりよく公民館の情報が伝わる」や「地域住民の多数の参加が得られた」というように、連携によって幅広く公民館の情報が伝わり、多くの地域住民の参加が得られた。

【地域の機関との連携に関して】

「連携先の機関の活性化と交流の機会が持てた」や「他公民館や地域との情報交換・交流が図れた」というように、地域の機関との関係が深まった。

(9) 管理運営体制について

88.6%の館が、館の管理運営上で苦慮していると回答しており、その内容は、「講座の企画・運営」をあげた館の率が 71.0%でもっとも高く、次いで「その他(45.2%)」、「職員の数が少ない(45.1%)」の順となっていた。

「その他」としては以下のような回答があった。

【施設に関して】

「高齢者が多く、エレベーターが必要になってきた」、「駐車場が狭く、公民館利用団体、公民館講座が重なったりすると自家用車で溢れかえる」等、の記述がみられた。

【利用者に関して】

「利用団体が減少ぎみである」、「講座への参加者の減少」等、の記述がみられた。

【予算に関して】

「公民館は人づくり、町づくりの地域活動拠点施設であり、人権尊重は重要な柱である。この柱を継続的に発信することは、公民館の業務である。啓発予算が減額されたことはマイナスと考える。大津市の生涯学習の重要な柱を見失ってはいけない」あるいは、「よい講師に来ていただくとなると、やはり費用がどうしても必要となる」との記述がみられた。

【職務に関して】

「図書館併設のため図書業務を兼ねている。インターネットの普及によりインターネットを利用して図書の予約等の

取扱が増え、それに伴う事務量が増加しつつある」等、職員数の減少もあり、事務量の増加に悩む館が多かった。また、「現在の生涯学習専門員の分掌事務、職務権限の位置づけが不明確であるため、公民館、支所兼務のあり方を含め、検討、改善が必要であると思う」といった、生涯学習専門員の職務の明確化を求める声もあった。

【事業の実施に関して】

「地域、学校園行事を配慮した講座開校日の調整に苦慮しており、また部屋の使用に関して利用者団体との調整に配慮がいること」等、の記述がみられた。

(10) 公民館のあるべき姿

地域にとって公民館はどうあるべきかをみると、「人づくり、仲間づくり、絆づくり、担い手づくりの場」をあげた館の率が88.9%でもっとも高く、次いで「地域づくりの拠点施設としての役割を果たす(83.3%)」となっていた。

今後の公民館の改善点としては、以下のことがあげられていた。

【事業や講座に関して】

「地元で活躍している人や団体と連携した事業展開」、「仲間作りや担い手作りにつながるような講座を企画」、「自立した地域のリーダーを育てる」、「公民館利用者団体や公民館講座受講者の参画による公民館事業」等、の事業や講座を展開する。

【公民館を交流の場にするに関して】

「地域の方が自由に集まれるような場が必要ではないかと思う」、「地域の方が、内容などを考え、人が集まる場」、「親子や仲間が集い、利用できる交流の場」等、公民館を気軽に住民が集える沙龙的な空間にする。

【ニーズの把握に関して】

アンケート調査等を通じて、住民のニーズを把握する。

【施設の充実に関して】

「乳幼児、高齢者用トイレ・授乳室・音響・空調設備等」、「団体が活動しやすいように、団体専用の部屋」等、施設を充実させる。

【連携に関して】

「地域の防災会と連携して、防災訓練日に公民館を館長が避難所として実際に運営してみる」、「近隣公民館との活発な情報交換」等、他施設や組織との連携を深める。

【職員の資質に関して】

職員が「市民が気軽に話しやすい雰囲気を持つ事」や「人の話をしっかりと聞く姿勢を持つ事」が必要であり、「地域にあったコーディネート力を磨き講座運営能力のスキルアップを図る」等、職員の資質を向上させる。

【ボランティアに関して】

「ボランティアの協力が得られるよう、呼びかけていく」、「分野ごとの地域ボランティア登録制度をつくる」等、ボランティアの受け入れや活用支援を行う。

【情報収集と発信】

「広報・チラシ等により、参加者を募る」、「市民センターだよりを活用した公民館講座の周知及び公民館利用サークルの紹介」、「インターネット等の積極的な活用」、「地域を知り、人の繋がりは財産であることを認識し情報収集に努めること」等により、情報の収集・発信を行う。